


# トランスミッター利用方法

**⚠ 定期的に充電してください。(年3~4回)**

 ← 充電が無くなった状態が長期間続くと充電できなくなります。

## トランスミッター本体の設定

- トランスミッターにもぐら本体と同じ周波数を設定します。
  - 本体上部の「切り替え」スイッチを「バッテリー」(左)側へスライドし、電源を入れます。
  - 『音楽』画面が表示されたら▶▶(中央)を押し、『再生』画面を表示します。
  - 「メニュー」ボタンを押し、▶▶(右)で『FM トランスミッター』を選択して▶▶(中央)を押します。
  - ▶▶(右)で『周波数設定』を選択し、▶▶(中央)を押します。
  - ◀◀/▶▶(左右)で周波数を指定し、▶▶(中央)を押します。
  - 「戻る」ボタン押し、『再生』画面に戻ります。
- 音量を 40(MAX)に設定します。(電波が良く飛びます。)
  - 『再生』画面で◀+(上)を押して音量を 40 まで上げ、▶▶(中央)を押します。『再生』画面に戻ります。

「切り替え」スイッチ



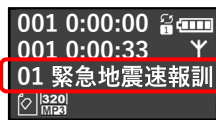
## もぐらに電波を飛ばして動作試験・訓練を行う

- もぐら本体のアンテナを外します。
- トランスミッターから電波を飛ばし、試験放送を開始します。
  - 『音楽』画面で▶▶(中央)を押して『再生』画面を表示し、▶▶(右)で音声を選択します。

『音楽』画面



『再生』画面



01 地震訓練



02 津波訓練



03 津波終了

- ▶▶(中央)を押すと電波が出力され、試験放送の音声再生されます。  
※冒頭音のNHKチャイム音に反応してもぐらが起動しますので、トランスミッターをもぐら本体のアンテナ部分に近づけてから再生してください。



○の位置にあるアンテナに近づけて再生

**⚠ トランスミッターを動かすと途中で終了しますので、試験放送が終わるまで動かさないでください。**

- 試験放送を終了します。
  - ▶▶(中央)を押すと再生を終了します。
  - 本体上部の「切り替え」スイッチを「USB/オフ」(右)側へスライドし、電源を切ります。

## 注意事項

※「02 津波訓練」を実行した場合は、必ず「03 津波終了」を実行するか、もぐら本体の電源を入れなおしてください。これを行わないと、新たな緊急警報を受信できません。

※続けて試験を行う場合は、1分以上経ってから行うか、もぐら本体の電源を入れ直してください。

また、◀◀/▶▶(左右)で音声を選択し、必ず経過時間が 0:00:00 であることを確認してから行ってください。

冒頭音から再生しないと、もぐらが起動しません。



※2分(初期設定)で自動的に電源が切れる設定になっています。復帰するには「切り替え」スイッチを一旦「USB/オフ」(右)側にし、再度「バッテリー」(左)側にスライドするか、▶▶(中央)を復帰するまで長押ししてください。

# 緊急地震速報試験用トランスミッター 取扱説明書

トランスミッター周波数 出荷時 81.0MHz

※トランスミッターを使用しての試験放送は下記の二通りの方法がございます。

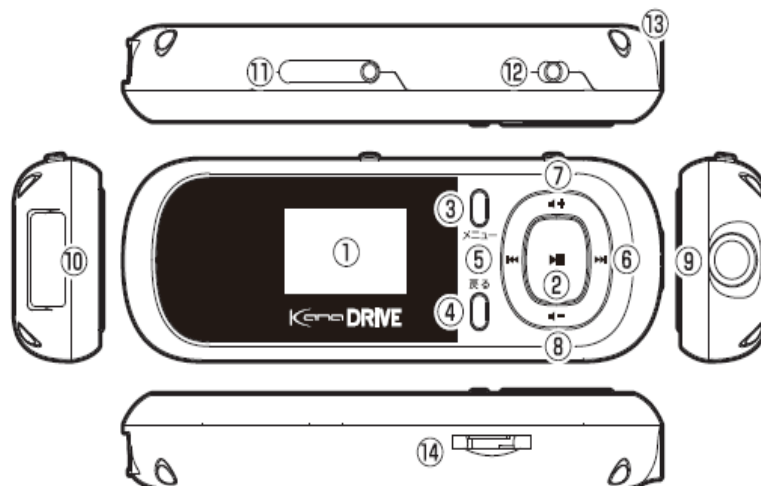
- A. (推奨) デジタルもぐら本体の周波数を変更し、トランスミッター出荷時設定の「81.0MHz」で行う。  
「81.0MHz」の周波数は一般に使用されていない周波数になります 5ページ 7. 訓練(操作方法) B.参照  
※試験放送終了後、必ずデジタルもぐらの周波数をご希望の周波数に設定してください。  
設定後はデジタルもぐら本体の画面で周波数を必ず確認してください。  
設定し忘れた場合、緊急地震速報・緊急警報放送(津波等)が受信できません。
- B. トランスミッターの周波数を変更して行う。5ページ 7. 訓練(操作方法) B.参照  
※トランスミッターをもぐら本体の周波数に合わせた場合、トランスミッターの電波が微弱のため、  
必ずアンテナを外した状態で行ってください。  
他の緊急地震速報受信機を動作させる恐れがあるので、お客様の責任のもとでご使用ください。

## 1. ご注意事項

重要！！長期間使用しない場合でも定期的に充電してください  
(バッテリーに充電できなくなります)

- ・充電が十分でない場合、電源がONにならなかつたり、電波を出す事が出来なかつたりしますので充電状態を確認してご使用ください。(確認方法は後述)
- ・本器には緊急地震速報の音声録音されたマイクロSDカードが内蔵されております。誤って音声を消去されたり、カードを紛失された場合にはご使用頂けません。音声入りカードは別途有償にて販売しております。

## 2. 各部の名称



緊急地震速報のリーディングカンパニー





株式会社 J コーポレーション

総合窓口 電話 0742-53-7833



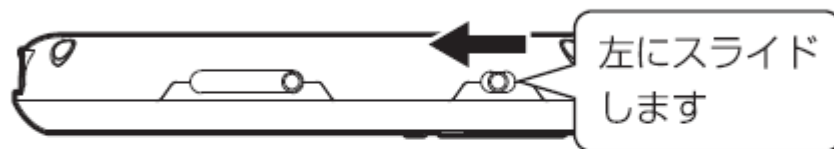
〒631-0011 奈良県奈良市押熊町 557-7-4F

<https://www.jcorp.co.jp> fax 0742-53-7795

- |   |   |
|---|---|
| ①ディスプレイ   | 動作状態を表示します。   |
| ②▶▶ ボタン   | 再生/一時停止をします。<br>(長押しした場合、スリープへ移行(復帰)します。)             |
| ③  ボタン | サブメニューを表示します。   |
| ④  ボタン | 1つ前の画面に戻ります。メインメニューに戻ります。                             |
| ⑤▶▶ ボタン   | 次のファイル/項目に移動します。                                      |
| ⑥◀◀ ボタン   | 前のファイル/項目に移動します。                                      |
| ⑦◀+ ボタン   | 音量を上げます。  |
| ⑧◀- ボタン   | 音量を下げます。  |
| ⑨イヤホン端子   | 専用イヤホンを接続します。<br>(FMトランスミッターを使用する場合は、イヤホンを取り外してください。) |
| ⑩スライド式USBコネクタ   | パソコンとの接続や充電に使用します。                                    |
| ⑪USBスライドスイッチ  | スライド式USBコネクタを引き出します                                   |
| ⑫切り替えスイッチ   | 「USB/オフ」と「バッテリー」を切替えます。                               |
| ⑬マイク  | 周囲の音を録音します。   |
| ⑭microSDカードスロット   | microSDカード(別売り)を挿入します。                                |

### 3. 電源を入れる

**電源オン** 本体上部の「切り替えスイッチ」を「バッテリー」側へスライドします。電源がオンになるとディスプレイに「GREEN HOUSE」ロゴが表示されます。



**電源オフ** 本体の「切り替えスイッチ」を「USB/オフ」側へスライドします。



\*初期設定では120秒(2分)で自動的に電源が切れる設定になっていますので電源が切れた場合には「切り替えスイッチ」を一旦「USB/オフ」にした後、再度「バッテリー」にスライドしてください。

\*長期間ご使用されない場合は必ず「USB/オフ」にしておいてください。

#### 4. 充電状態（バッテリー残量）を確認する

ディスプレイの右上にバッテリー残量アイコンが表示され、バッテリーの残量を確認することができます。



#### 5. 充電する

1. 「切り替えスイッチ」を「バッテリー」側へスライドします。
2. 本体上部のUSBスライドスイッチを左へスライドし、USBコネクタを引き出します。
3. 延長USBケーブルを本体に接続して、パソコンのUSBポートや専用シガーソケットアダプタに接続します。
4. ディスプレイに接続中を示す画面が表示され、バッテリー残量アイコンが増減します。
5. 充電が完了すると、バッテリー残量アイコンの増減が停止します。
6. 充電完了後は、「切り替えスイッチ」を「USB/オフ」側へスライドしてください。








\*パソコンから取り外す場合は、パソコンのタスクトレイから「GH-KANADRAの取り外し」をクリックし、「‘USB大容量記憶装置’はコンピューターから安全に取り外すことができます」と表示してから取り外してください。

## 6. メニューとボタンの操作

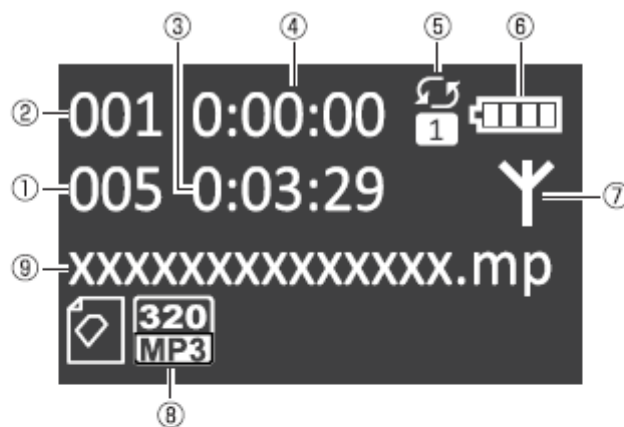
◀◀/▶▶ボタンを押すと各メニューを選択できます。

決定するには ▶|| ボタンを押します。

各メニューからメインメニューに戻るには、<sup>戻る</sup> 0 ボタンを押してください

| アイコン  | メニュー  | 機能説明                       |
|---|-------|----------------------------|
|  | 音楽    | 音楽ファイル(MP3、WMA)を再生します。     |
|  | 録音    | 周囲の音を録音します。                |
|  | 録音再生  | 録音、FMラジオ録音で録音したファイルを再生します。 |
|  | FMラジオ | FMラジオを聴きます。                |
|  | 設定    | 各種設定を行います。                 |





「音楽」と表示されている画面で ▶|| ボタンを押すと下記の画面が出ます。



|   |   |                |
|---|---|----------------|
| ① | 005   | 総曲数            |
| ② | 001   | 曲番号            |
| ③ | 0:03:29   | 再生時間           |
| ④ | 0:00:00   | 経過時間           |
| ⑤ |  | リピートアイコン       |
| ⑥ |  | バッテリー残量アイコン    |
| ⑦ |  | トランスミッターONアイコン |
| ⑧ |  | 再生フォーマットアイコン   |
| ⑨ | xxxxxxxxxxxxxxxxx.mp  | ファイル名          |

\* X X X X X Xの所には「01緊急地震速報訓練」と表示されています。

\*再生時のボタン操作は下記をご参照ください。

|         |  |
|---------|--|
| 再生      | 一時停止中に  ボタンを押します。 |
| 一時停止    | 再生中に  ボタンを押します。   |
| 前のファイルへ |  ボタンを押します。        |
| 次のファイルへ |  ボタンを押します。        |

## 7. 訓練（操作）方法

A. デジタルもぐら本体の周波数を変更し、トランスミッター出荷時設定の「81.0MHz」で行う。



①デジタルもぐらの受信周波数を「81.0MHz」に合わせてください。

（設定方法はデジタルもぐら本体の「取扱説明書」をご参照ください）

②デジタルもぐらを受信待機状態にしてください。

③デジタルもぐら本体のアンテナ接続部分にFMトランスミッターを近づけてください。

④4ページの画面で「01緊急地震速報訓練」または「02緊急警報訓練」のどちらかを



 ボタン で選択し、 ボタン を押すと電波が出され、試験放送が始まります。



⑤試験放送が終わるまでトランスミッターを移動させないでください。試験が途中で終了する可能性があります。試験放送終了後、必ずデジタルもぐらの周波数をご希望の周波数に設定してください。設定後はデジタルもぐら本体の画面周波数を必ず確認してください。



（設定し忘れた場合、緊急地震速報・緊急警報放送(津波等)が受信できません。）

B. トランスミッターの周波数を変更してテストを行う。アンテナを外した状態で行ってください。

①4ページの画面の状態ですべて「メニュー」ボタンを押し、サブメニューを開きます。

②  ボタン で「FMトランスミッター」を選択し、 ボタン を押します。



③  ボタン で「周波数設定」を選択し、 ボタン を押します。

④  ボタン で周波数を設定し、 ボタン を押します。

⑤「戻る」ボタンを押し、音楽再生画面へ戻ります。

⑥デジタルもぐらの受信周波数がトランスミッターで設定した周波数と合っている事を


確認して、デジタルもぐら本体のアンテナ接続部分にFMトランスミッターを近づけてください。4ページの画面で「01緊急地震速報訓練」または「02緊急警報訓練」のどちらかを

 ボタン で選択し、 ボタン を押すと電波が出され、試験放送が始まります。

⑦試験放送が終わるまでトランスミッターを移動させないでください。試験が途中で終了する可能性があります。

### 【試験時のご注意事項】

※続けてテストされる場合は1分以上経ってから行うかもぐら本体の電源を入れ直して再度行ってください

① ファイルの途中から再生するとデジタルもぐらが正常な試験音と認識できませんので必ず4ページの画面で「④経過時間」が0:00:00であることを確認して試験してください。経過時間が0:00:00で無い場合は  ボタン でファイルを前後するとリセットされます。

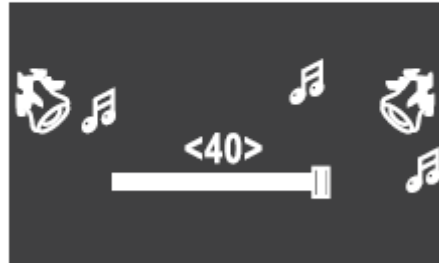
② 「02緊急警報訓練」を実行された場合は、必ず「03終了信号」を実行するか、デジタルもぐら本体の電源を入れ直してください。それらを行わないとデジタルもぐらは警報が継続していると見なして、新たな緊急警報を受信出来ません。

※「02緊急警報訓練」には津波の信号が入っています。

## 8. 音量の調整

4 ページの画面または再生中に下記の操作を行うと音量の調整が出来ます。

1. ◀+ボタンか▶-ボタンを押し、ボリューム画面を表示します。
2. ◀+ボタンか▶-ボタンで音量を調節します



ボリューム画面

\*音量は「40」（MAX）でお使いください。これより小さいと電波が弱くなり、デジタルもぐらが正常に受信できない場合があります。

## 9. こんな時は

①デジタルもぐらがトランスミッターの電波を受信しない。

- ・デジタルもぐらが動作モードになっているか確認してください。
- ・デジタルもぐらとトランスミッターの周波数が同じか確認してください。
- ・トランスミッターをデジタルもぐらに近づけてください。
- ・トランスミッターの音量がMAX（40）になっているか確認してください。

②トランスミッターが機能しない。

- ・トランスミッターの充電が十分かご確認ください。
- ・トランスミッターが音楽再生モードになっているかご確認ください。

現在のモードが不明な場合は一旦、電源を切り、再度入れ直してください。自動的に音楽再生モードになります。

- ・イヤホンを使用し、トランスミッターの音を確認してください。
- ・トランスミッターが送信モードになっているかご確認ください。

トランスミッターのモードはトランスミッターの周波数を変える際のメニューの

「オン/オフ」で ▶▶ ボタン を押し、「オン」の所に▶が付いていればOKです。

## 10. 製品仕様

|                   |   |
|-------------------|---|
| ディスプレイ            | 1.1 型 液晶  |
| ディスプレイ画素数         | 128×64 ピクセル   |
| 対応外部メモリー          | microSD カード(～2GB) / microSDHC カード(～16GB)<br>※付属していません<br>※SD スピードクラス「Class6」まで、「UHS」非対応 |
| 対応ファイル形式          | MP3(32kbps～320kbps) / WMA(48kbps～192kbps) / WAV<br>※DRM(デジタル著作権管理)保護されたファイルには対応していません。  |
| 録音ファイル形式          | WAV(ADPCM)  |
| 録音時間の目安(16GB の場合) | 約 540 時間(低レベル) / 約 270 時間(中レベル) / 約 90 時間(高レベル)<br>※お使いの外部メモリーにより録音時間は異なる場合があります。       |
| ヘッドホン出力           | 最大 1.0mW / 1.6mW  |
| ヘッドホンインピーダンス      | 16/32 Ω   |
| 音声周波数特性           | 20Hz～20KHz  |
| FM ラジオ受信周波数       | 76.1MHz～90.0MHz   |
| FM トランスミッター出力周波数  | 76.0MHz～90.0MHz   |
| 搭載端子              | ヘッドホン出力端子(ステレオミニ)×1、<br>USB コネクタ(スライド式)×1、<br>microSD カードスロット×1                         |
| USB 規格            | USB2.0(High Speed)  |
| 電源                | DC 5V(USB 給電)   |
| 再生時間(バッテリー)       | 約 8 時間(音楽再生時) / 約 4 時間(FM トランスミッター使用時)  |
| 充電時間              | 約 4 時間 30 分   |
| 動作温度範囲            | 0℃～35℃  |
| 動作湿度範囲            | 20%～80% (結露なきこと)  |
| 付属品               | MicroSD 2GB、イヤホン、USB ケーブル   |
| 外形寸法              | W81×D14×H29(mm)<br>※USB コネクタ格納時   |
| 重量                | 約 23g   |
| 保証期間              | 1 年間  |



## ➤ 保証について

### 製品保証規定（保証書）

お客様の正常な使用状態で万が一故障した場合のみ、保証規定に基づいて無償修理いたします。尚、物理的な破損等が見受けられる場合、お客様にて改造・修理されている場合には無償修理の対象外となります。

- 保証期間内に正常なる使用状態において、万が一故障した場合には無償修理いたします。
- 修理は SEND BACK 方式です。※修理依頼時の送料はお客様負担にてお願いします。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損害について、弊社および販売会社は一切責任を負わないものとします。
- 本製品の使用誤りや使用中に生じた本製品に起因する故障・誤動作あるいは停電等の外部要因によって生じた事故・人身・経済損害等、すべての障害について、弊社および販売会社は、一切その責任を負いません。
- 本保証規定に基づく弊社および販売会社の責任は、製品についてお客様が実際に支払った金額を上限とします。
- 次のような場合には、保証期間内でも有償修理となります。
  - 取扱い上の誤り及び不当な改造や修理によれる故障及び損傷。
  - お買い上げ後の輸送、移動、落下、そのほか衝撃による故障及び損傷。
  - 間違っ て接続した場合（電源電圧が違うアダプタをさした情况等）
  - 火災、塩害、ガス害、地震、落雷、および風水害その他天災地変、あるいは異常電圧などの外部要因に起因する故障や損傷。
  - 戦争、暴動、内乱、輸送機関の事故、労働争議その他不可抗力の事由は生じた場合による故障及び損害。
  - 日本国外で発生した損害。保証書のご提示が無い場合。
  - 弊社もしくは代理店の都合以外の理由により、保証書に記載の字句を利用者もしくは第三者が改めた場合。

本保証規定は、日本国内でお買い求めいただき、日本国内でご使用いただいている場合のみにて有効なものとなります。

本内容については、お客様の権利を不利益に変更するものではありません。

本書は、保証規定の範囲で無料修理させていただく事をお約束するものです。

保証期間内に故障が発生した場合は、修理をご依頼の上、本書を提示ください。

（ご提示の際は、必ず複写した物を保管してください）※保証期間中においても出張修理は行いません。

保証書はいかなる場合においても再発行いたしませんので、紛失なさないように大切に保管してください。本保証書は、個人情報も記載されているので、保証書の保管はお客様の責任において行ってくださいますようお願いいたします。

本保証書は、本保証書に記載された内容により、お客様の法律上の権利を制限するものではありません。

|      |                  |        |
|------|------------------|--------|
| 対象機種 | FMトランスミッター FM-DM |        |
| 保証期間 | 年 月 末日 まで        |        |
| 契約者名 | (ふりがな)           | (ふりがな) |
|      | 会社名              | 担当者名   |
|      | 住所 〒             |        |
|      | 電話番号             | FAX 番号 |
| 販売店名 |                  |        |